



羽村市立栄小学校

学校だより No.3

<6月号>

## 「大切にしてもらえた！」から始まる人権教育

校長 杉森 祥吾

6月に入り、校庭の木々の緑も一層深まり、子供たちは毎日元気に学校生活を送っています。先日の学校公開には、大変多くの保護者・地域の皆様にご来校いただき、誠にありがとうございました。授業や休み時間、友達と関わる子供たちの様子を温かく見守っていただき、教職員一同、大変心強く感じています。子供たちも、大切な家族に見守られることで、益々意欲的に学習に取り組むことができていました。お忙しい中、ご協力いただいた多くの皆様に改めて心より感謝申し上げます。

さて、6月は「ふれあい月間」です。本校では、教育活動の基盤として「人権教育」を大切にしています。人権教育とは、一人一人の違いを認め合い、互いを大切にしながら安心して生活できる力を育む教育です。子供たちは、日々の学校生活の中で、友達との関わり方や言葉遣い、相手の気持ちを考えることを学んでいます。しかし、何気ない一言や軽い気持ちの行動が、相手を深く傷つけてしまうことがあります。特に近年は、SNSやオンラインゲーム等を通じたトラブルも増えており、見えにくいいじめへの対応も重要となっています。本校では、いじめは「どの子にも、どの学校にも起こり得るもの」と捉え、未然防止・早期発見・早期対応に努めています。日常的な観察やアンケート、教育相談などを通して、小さな変化を見逃さないよう取り組んでおります。また、学級活動や道徳の授業を通して、自分も相手も大切にすることを育てています。

その中で、特に大切にしているのは、「自分のことを大切にしてもらえた！」という気持ちを、子供たちがもてるようにすることです。この体験なくして、人権教育の充実は難しいと考えます。なぜなら、「自分が大切にされた経験」が、「相手を思いやる気持ち」につながり、人権感覚が醸成されていくと考えからです。そこで、教職員は一人一人の思いにまずは寄り添い、子供たちが安心して相談できる環境づくりに努め、「大切なあなたを守りたい」と伝えた上で、「嫌な思いをしたら声を上げていい」そして、「自分と同じように他の人や友達も大切にしたい」という意識も同時に高めていきます。ご家庭でも、ぜひお子様の様子や日々の会話に耳を傾けていただき、我が子の思いや頑張りを受け止めつつ、友達の考えにも思いを馳せるようなお話をしていただくと幸いです。学校と家庭が同じ方向を向いて、ともに、すべての栄小の子供たちの人権を守っていかれたらと願っています。

今月も宿泊学習や校外学習など、学年ごとの行事が多数予定されています。集団生活や公共の場での活動は、相手を思いやる気持ちや協力する大切さを学ぶ貴重な機会です。学校では、こうした体験活動を通して、友達の良さを認め合い、自分とは異なる考えや立場を尊重できる力を育ててまいります。今後も、人権教育を教育活動全体の中で推進していきます。

子供たちが安心して笑顔で学校生活を送るためには、学校だけでなく、ご家庭や地域の皆様のお力が欠かせません。教職員一同、改めて一人一人に寄り添いながら、温かな学校づくりに努めてまいります。引き続き、本校の教育活動へのご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。